

2020年度 附属竹早小学校・附属竹早園舎 学校園経営計画

1. 附属学校園の役割

- ・ 学部・大学院における研究を附属学校で実際の指導に取り入れ、その結果を学部・大学院の教育研究に反映していく実験・実証校としての役割
- ・ 学部・大学院の教育研究に基づいて、教育実習生を指導する教育実習校としての役割
- ・ 一般公立学校と同様に普通教育を行う公教育の役割
- ・ 地域の学校と連携して教育研究を推し進める役割

2. 東京学芸大学附属学校園教育目標

東京学芸大学附属学校は、在学する幼児・児童・生徒に普通教育を施すとともに、大学と連携して実証的研究や実践的研究に取り組むことにより、

- ・ 協働して課題を解決する力
- ・ 多様性を尊重する力
- ・ 自己を振り返り、自己を表現する力
- ・ 新しい社会を創造する力

の四つの力を持った次世代の子どもを育成する教育を推進する。

3. 校訓・教育目標

校 訓 誠

創立当初より「誠」の一字を校訓に掲げ、時世の推移、思潮の変転にもかかわらず、星霜百年にわたって「誠」の精神を貫いて教育に当たり今日に至っている。

「誠」の校訓は、児童のみならず教職員、保護者にとっても「よりどころ」となるものである。本校が常に健全な社会であり、大切にしている「家庭的な雰囲気」を持続していけるよう、竹早小学校に集うすべてが常に「誠」を具現するよう努めなければならない。

園 舎 教 育 目 標

自分にしたいことに取り組む中で、友達の気持ちも考えながら行動できる子の育成

学 校 教 育 目 標

自ら学び ともに手をとり合い 生活を切り拓く子の育成

4. 育てたい幼児・児童像

<育てたい幼児>

- ・ 自分なりのやり方で一生懸命取り組む子
- ・ 友達と共感しあう子
- ・ 自分の役割を最後まで果たそうとする子

<育てたい児童>

- ・ 明るく元気に取り組む子
- ・ よく考え工夫して学ぶ子

- ・ いくつしみあい仲よく助け合う子
- ・ よい生き方を求め続ける子

5. 中期経営目標

- ・ 幼小中の連携教育に関する研究を行う場として、大学とも連絡を密して研究を深めていく。
- ・ 大学・企業・現場教員をメンバーとするイノベーション戦略会議を核として、「学校というシステム」の新しい具体的なモデルを提案すべく多様な実践検証を行っていく。
- ・ 学習経験の違い、レディネスや諸能力の格差、学びに向かう力の違いなど幼児・児童の実態を考慮した多様な教育のあり方を研究する。

6. 2020年度経営目標

(1) 園舎学校経営の目標

◎ 何よりも安全を最優先に（重点目標）

- * 子どもの「心の安全」対策の徹底
 - ・ いじめは絶対に許さないという学校の姿勢のもと、学校生活の様々な場面で多様性を認め寛容性を育む。
 - ・ 学期ごとの自由記述式のアンケートや、「生命の日」集会後のアンケートなどから、いじめの早期発見、子ども一人一人の状況や友人関係の把握に努め、情報の共有化を図り、学校全体で組織的な指導を行う。
 - ・ コーディネーター、校内委員会を中心に特別支援の教育環境を整備するとともに、カウンセラー、養護教諭、医療機関、子ども家庭支援センター等と連絡を密にとり丁寧な生活指導を行なう。
- * 安全管理の基本姿勢「最悪の事態を想定した最善の備えを」
 - ・ 事故の後に費やさなければならないエネルギーを、事故を未然に防ぐために使う。
 - ・ 日々、教職員一人一人が構内に危険な箇所がないかどうか点検に努める。
 - ・ 「学校は、子どもたちにとって決して安全な所ではない」という認識をもって、日々の安全管理・指導にあたる。
 - ・ 「昨日は何もなかった。今日も何も起きなかった。だから、明日も何も起こらないだろう」という姿勢が気の緩みを生む。安全に関しては常に緊張感、危機感をもって臨む。
- * 日常の安全管理の徹底
 - ・ 休み時間や授業中における日々の安全対策や登下校時のマナー・安全対策を見直し、徹底を図る。
 - ・ 児童を必要以上に急かせるような無理な計画は立てない。
 - ・ 児童が校外で事故や事件に巻き込まれることがないように安全指導を充実させると共に公共マナーの育成に努める。

○ 子どもにも保護者にも仕事にも「誠」の精神をもって取り組む

- * 附属学校教員としての自覚をもつ。
 - ・ 教員である前に一人の社会人として、法に抵触するような言動は断じてとらない。
 - ・ 開発的かつ先導的立場に立って授業を公開し、また、実習生指導を行う立場にある附属学校教員としての自覚（身なり、振る舞いを含めて）をもって教材研究、実践研究に励み、模範的な授業ができるよう努めると同時に、教員・社会人としての基本的な姿勢、能力を身につける。
- * 学校が管理する個人情報が外に流出することのないよう、責任をもって管理する
 - ・ 学校園が管理する個人情報は必要最小限に止める。
- * 保護者からの信頼獲得に努める。
 - ・ 学校評価保護者アンケートなどから、保護者の声に対して真摯に向き合う。
- * 一人一人の子どもの思いに寄り添う

- ・ 竹早の教育を大事にする。（後述）

○ 教職員にとって働き甲斐のある職場環境（←個の尊重，自由・権利＝義務）に努める。

- ・ 竹早小学校の理念を大事にしつつ、働き方改革の視点から仕事の内容や方法を見直していく。
- ・ 集団の中で決められたことは、優先する。

(2) 教育活動の目標

「竹早の教育」がめざすもの

本校は、知・徳・体調和のとれた子どもの育成を重視している立場から、過度に点数にとらわれたり、競争をあおったりする教育を否定している。

本校教育の基本姿勢を一言で表現するならば、それは、「はじめに子どもありき」であり、「自己肯定感を育てる教育」である。本校の教育では、子ども自身の「願い」や「思い」の実現が常に尊重され、課題を自分事として追究していく過程で、より達成感を味わい、自己への肯定感を育むことを重視している。これは、他者への受容的態度にもつながるものと考えている。

本校の学習の目的は、元々ある形や枠を習得していくことではない。その子にとって必要であり、学ぶ価値がある内容を追究し、それを習得していく（好きなこと、興味あることに根気強く、ていねいに取り組み、内容をより高めていく）過程で主体的に生きる力（知識，知恵，技能）を身につけることこそが本校でめざす学習となる。

◎ 子ども自身の願いや思いを大切に活動創造・工夫する。（重点目標）

- ・ キッズフェスティバル，竹の子祭，竹早祭，移動教室等の行事の際も子どもたちが主体的に取り組めるような教師の関わり方を工夫する。
- ・ クラスのみんなで課題を追究するするようなプロジェクト的な活動（自己実現活動）を通して、子どもたちの願いの実現を尊重しながら協働的な取り組みを行う。
- ・ 個の興味関心を探求する活動（自己実現活動）の時間を保障する。

○ 異年齢集団による自治的な活動を大事にする。

・ 縦割り清掃，キッズや竹の子祭での縦割り活動，夏の日光林間学校での縦割り生活等，下学年は上学年に憧れをもち，上学年は下学年にいたわりの気持ちをもって取り組む「縦割り活動」のよさを大事にし，縦割り班を「もう一つの学級」と考え，教師はその担任として子どもたちと接するようにする。また，学年の学級（通常の学級）の担任とも子どもたちの様子を互いに共有するように心がける。

・ その子らしさ（その子の思いや願い）を尊重し一人ひとりに丁寧に寄り添うと同時に，子どもたちが集団で健全な社会生活を営んでいくために必要な資質を身につけられるよう指導する。（→校訓「誠」，主体性，どならない生活指導，自治的な力）

* 竹早が積み上げてきた財産を大切にす。もちろん，今いるメンバーで研究の過程で“よりよく変更する”ことは恐れないが，竹早小学校独自の不易な部分を共有し，大切にす。

* 学年主任のリーダーシップを機能させる。

・ 各学年・クラスで異なって良いところと，共通性・一貫性・系統性をもたなければならないところを確認し，必要に応じて改善する。

* 生活指導上のきまりやルールを共通に徹底して指導する。

・ あらゆる場を通して公衆道徳（校外，車内でのマナー等）を適切に身につけられるよう指導する。

・ 学校生活のきまりについては，全学級，全教員が同じ指導をする。

(3) 研究活動の目標

○ 国の拠点校及び地域のモデル校となるべく、本学と一体となって先導的・開発的な教育研究を推進する。

- ・ 附属幼稚園竹早園舎，附属竹早中学校との連携を密にした教育（幼小中連携教育）の推進
- ・ 教育課程特例校
- ・ 地域の教育への貢献（区・都教育委員会及び近隣学校との協力・連携及び支援体制）

◎ 「未来の学校プロジェクト」として、本学・企業と連携を密にとって開発的は研究のできる基盤を構築する（重点目標）

- ・ 大学・企業・現場教員をメンバーとするイノベーション戦略会議を核として、「学校というシステム」の新しい具体的なモデルを提案すべく多様な実践検証を行っていく。

○ 幼小一貫，幼小中連携の教育を大切にする

- ・ 「学びを深める場をつくる」をテーマに，各教科領域で実践授業をもとに研究を深化させる。
- ・ 主体的で協働的な姿勢や態度を育成することを目標とした、竹早幼小独自の「自己実現活動」（教育課程特例校）についての研究を深化させる。

○ 「竹早の教育」に責任をもつ 「竹早の教育」のスタンダードを大切にする

竹早地区における「主体性」とは
子どもがよりよく生きるために、自分（あるいは集団）の願いに基づき、自らの意思・判断で行動しようとする姿勢や態度

* 国の拠点校として、竹早独自の教育研究を充実させ全国に発信する。

- ・ 幼小中連携研究
- ・ 教育課程特例校

* 地域のモデル校として、地域の教育に貢献する。

- ・ 区・都教委，近隣学校との連携・関係を強化する。
- ・ 区教委「竹早小学校の教育機能を生かしたプロジェクト」

(4) 学生の教育・支援活動の目標

◎ 学生に教育実習の場を提供し，教員として優れた資質をもった人材を育成する。

（重点目標）

- ・ 附属学校としてこれらの使命を責任をもって遂行することにより，我が国初等教育界に貢献できるよう努める。

(5) 社会貢献活動の目標

◎ 附属学校の使命である地域の拠点校として特に，文京区教育委員会との連携を密にしていく。（重点目標）

- ・ 文京区立学校3年次授業研究会の講師として派遣をする。
- ・ 文京区立金富小学校とはじめ，近隣公立学校の要望があれば，積極的に授業参観を受け入れる。
- ・ 校務に支障が無い限り，可能な限り参観・講師派遣をする。